

2023年度（令和5）年度事業報告

（2023年4月1日から2024年3月31日まで）

1. 会長報告

(1) 総会

2023年度定時総会を2023年6月17日、東北大学(仙台市)において開催した。代議員83名(電子的議決権の行使含む)参加のもと、2022年度収支決算書について審議し可決した。

(2) 理事会、委員会等の開催

2023年度の会議は、WEB会議・メール審議の開催を含め、開催数を以下の通り示す。

理事会	5回
業務担当理事会	8回
幹事会	1回
編集委員会	22回
学術広報委員会	3回
国際交流委員会	1回
学会賞選考委員会	1回
トピックス等担当委員会	2回
将来構想検討委員会	1回
代議員選挙管理委員会	3回
ヒューマンニュートリションアワード選考委員会	2回
シンボルマーク選考委員会	1回

2. 庶務担当理事報告

(1) 会員等の状況(2024年3月31日現在)

1) 会員数の内訳

正会員	585名
学生会員	50名
団体会員	102件
賛助会員	31社(49口)

2) 役員等

名誉会員	10名
理事	16名
監事	3名
幹事	27名
功労会員	73名
代議員	84名
賛助会員幹事	17名

3) 委員会等

編集委員	12名
学術・広報委員	5名
国際交流委員	11名
学会賞選考委員	19名
トピックス等担当委員	33名
将来構想検討委員会	11名
代議員選挙管理委員	5名
ヒューマンニュートリションアワード選考委員	7名
シンボルマーク選考委員	14名
JNSV 編集委員	11名

(2) 研究業績の表彰、奨励

1) 学会賞受賞者

津下 英明(京都産業大学・生命科学部 教授)

「細菌 ADP リボシル化酵素の基質認識機構とその細胞膜透過に関する研究」

老川 典夫(関西大学化学生命工学部 生命・生物工学科 教授)

「含硫含セレンアミノ酸・ペプチド代謝に関連する酵素の存在、特性、機能ならびに補酵素の役割に関する研究」

2) 奨励賞受賞者

三島 英換(東北大学大学院医学系研究科 腎膠原病内分泌学分野 非常勤講師、ヘルムホルツセンターミュンヘン 客員研究員)

「ビタミン K のフェロトーシス抑制作用の解明とビタミン K 還元酵素の同定」

西川 美宇(富山県立大学工学部 助教)

「疾患モデル動物を用いたビタミン D の新規生理作用メカニズムに関する研究」

3) 企画・技術・活動賞受賞者

河合製薬株式会社

河合 勝彦、清水 寛浩、牛丸 聡、茂出木 耕一

「服用しやすいビタミン AD 製剤を通し、小児を中心とした健康への取り組み」

4) 功績者表彰受賞者

阿部 皓一 (武蔵野大学薬学部 SSCI 研究所分析センター長

三菱ケミカル株式会社 LS 事業部アドバイザー

(元)エーザイ株式会社ビタミン E 情報・技術室長)

太田 好次 (藤田医科大学医学部客員教授)

田口 寛 (多面的健康長寿法研究家(三重大学名誉教授))

5) 学生優秀発表賞

小澤 美織(東京工業大学生命理工学院生命理工学コース)

「免疫細胞における GCH1/BH4 の合成調節機構」

財津 奏太(長岡技術科学大学大学院工学研究科先端工学専攻)

「サブユニット間 SS 結合の導入による酵母 D-アスパラギン酸オキシダーゼの耐熱化」

田中 優希奈(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)

「レチノイド X 受容体を選択的に蛍光標識する NBD 結合プローブの創出研究」

田路 莉子(大阪公立大学大学院生活科学研究科生体機能学分野)

「AIN-93 飼料はビタミン E 研究に適しているか？」

仲谷 尚人(富山県立大学大学院工学研究科 生物・医薬品工学専攻)

「3 型くる病を引き起こす CYP3A4 変異体のビタミン D 代謝解析」

平島 俊亮(神戸学院大学大学院薬学研究科)

「時期特異的遺伝子欠損マウスを用いた内軟骨性骨化におけるビタミン K 変換酵素 UBIAD1 の機能解明」

6) トピックス貢献賞

石神 昭人(東京都健康長寿医療センター研究所 副所長)

3. 学術・広報担当理事報告

(1) 年次大会の開催

日本ビタミン学会第 75 回大会は、2023 年 6 月 17 日から 18 日までの 2 日間、会場となった東北大学 青葉山コモンズ(仙台市)にて 4 年ぶりに通常開催された。また、大会参加者数は、約 300 名であった。

大会委員長:白川 仁(東北大学大学院農学研究科 教授)

実行委員長:仲川 清隆(東北大学大学院農学研究科教授)

テーマ:『ビタミン・バイオフィクターと研究者の想いを繋ぐ未来への架け橋』

・学会賞等受賞講演 5 講演

・一般演題発表 94 題(内 学生発表 42 演題)

・特別講演

「Role of vitamin K in ageing - from development to senescence」

Leon J Schurgers (Maastricht University, Netherlands)

・基調講演

「健康・栄養施策の動向について」

齋藤 陽子(厚生労働省健康局健康課栄養指導室)

・企業シンポジウム

『ビタミンや脂質の分析・表示でお困りでは？(実際や注意点、コツのご紹介)』

「ビタミン C 分析法の解説とビタミンマイクロバイオアッセイ計算の実際」

小林 尚 (一般財団法人 食品分析開発センターSUNATEC)

「一般的な食品における脂溶性ビタミン分析の実際」

松岡 慎 (一般財団法人 日本食品分析センター)

「希少脂肪酸分析の実際」

板橋 豊（公益財団法人 日本食品油脂検査協会）

「脂質(油脂)のエネルギー算出方法」

仲川 清隆（東北大学 大学院農学研究科）

・若手シンポジウム

『栄養・食品機能』

「細胞内アスコルビン酸濃度の変化と生理作用の関係性の解明」

宮澤 大樹（東北大学 未来科学技術共同研究センター）

「マリカロテノイドの食品機能性の探索」

真鍋 祐樹, 菅原 達也（京都大学大学院 農学研究科）

「食品に含まれるカロテノイドの機能性研究」

前多 隼人（弘前大学 農学生命科学部）

『ストレス応答・シグナル伝達』

「リポキシゲナーゼの役割とその阻害」

川上 祐生（岡山県立大学 保健福祉学部）

「ビタミン K によるミトコンドリア保護作用」

何 欣蓉（北海道大学大学院保健科学研究科）

「CPZ 耐性腸内細菌による脂質酸化依存的な心不全突然死抑制メカニズムの解析」

幸村 知子（北里大学薬学部）

(2) 市民公開講座

2023 年度市民公開講座は、2023 年 11 月 18 日東京都千代田区にある、一橋講堂にて一般市民約 60 名参加のもと開催した。

実行委員長:影近 弘之(東京医科歯科大学 教授)

会場:一橋講堂(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)

テーマ:健康とビタミン

講演内容:「日本人とビタミン D」

越智小枝(東京慈恵会医科大学 教授)

「ビタミン B による健康増進・病気の予防」

田中 清(静岡県立総合病院臨床研究部 部長)

「免疫は栄養がつくる ―ビタミン類の働きを中心に―」

阿部皓一(武蔵野大学薬学部 SSCI 研究所 分析センター長)

(3) 次世代ミーティング

将来構想検討委員会による第 1 回 次世代のビタミン学に繋げるイノベーションミーティング(通称次世代ミーティング)を WEB にて開催した。

大会テーマ:『点と点から新たな繋がりを目指す!』

会期:(シンポジウム)2023 年 11 月 10 日(金)16:30~18:00

(一般演題発表)2023 年 11 月 11 日(土)~11 月 19 日(日)

内 容: シンポジウム:視聴者数 約 500 名

・「細胞膜透過ペプチド:ポリヒスチジンを利用した医療・農業応用研究」

岩崎 崇 先生(鳥取大学農学部准教授)

・「プロビタミン A と乳酸菌との組合せに着目した食品の研究」

里見 翔平 先生(カゴメ株式会社食健康研究所)

一般演題発表:発表者数 18 名

(4) 地区部会活動

(中国・四国地区部会活動)

「島根大学研究表彰記念シンポジウム」(後援)

テーマ:めくるめくビタミン C の世界への誘い ～新たなビタミン C のはたらき～

日 時:2024 年 3 月 4 日(月)14:00～17:00

場 所:島根大学松江キャンパス大学ホール及びオンライン

主 催:島根大学

参加者数:143 名

講演内容

「植物アスコルビン酸生合成研究のこれまでとこれから」

【島根大学研究表彰(功労賞)受賞】

石川 孝博(島根大学学術研究院農生命科学系・教授)

「なぜ植物はビタミン C を多く含むのか?—植物の環境順応における役割—」

丸田 隆典(島根大学学術研究院農生命科学系・教授)

「アスコルビン酸誘導体の創製と薬理作用」

田井 章博

(徳島大学大学院社会産業理工学研究部生物資源産業学域・教授)

「ビタミン C と老化—健康長寿を目指して—」

石神 昭人(東京都健康長寿医療センター研究所・副所長)

(5) 共催・協賛・後援

1) 第 70 回日本栄養改善学会学術総会 共催シンポジウム

開催日時:2023 年 9 月 3 日(日)13:10～14:40

開催場所:名古屋国際会議場

テ ー マ:「私たちのビタミン摂取量は本当に足りているか?」

食事摂取基準 2025 年版に期待すること」

座 長:田中 清・池田 彩子

講演内容

「ビタミン D 栄養を取り巻く環境変化と食事摂取基準」

津川 尚子(神戸学院大学 栄養学部 教授)

「適切なビタミン摂取量の検討にあたり求められることとは?」

栗原 晶子(大阪公立大学 生活科学部 教授)

「水溶性ビタミンの食事摂取基準」

福渡 努(滋賀県立大学 人間文化学研究院)

2) 2023 年度市民公開講演会(協賛)

主 催:公益社団法人ビタミン・バイオフィクター協会

開催日時:2023 年 12 月 2 日(土)13:00~16:30

テ ー マ:「健康長寿を目指した食の話:食事の時間、腸内細菌、
ビタミン・バイオフィクターに注目して」

会 場:龍谷大学響都ホール(京都駅八条口前 アバンティ9 階)

世 話 人:内藤 裕二(京都府立医科大学 大学院医学研究科 教授)

吉村 徹(立命館大学上席研究員、名古屋大学名誉教授)

講演内容

「ビタミン・栄養素欠乏に由来する体調不良(軽度不調)とその対策」

山本(前田) 万里(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
食品研究部門エグゼクティブリサーチャー)

「いつ、何をたべるかの栄養学」

田原 優(広島大学医系科学研究科公衆衛生学 准教授)

「ポリフェノールの新しい機能性」

岸本 良美(摂南大学農学部食品栄養学科 准教授)

「セラミドと健康」

生城 浩子(大阪医科薬科大学医学部生化学教室 講師)

「運動と腸内細菌・バイオフィクター」

青井 渉(京都府立大学大学院生命環境科学研究科栄養科学 准教授)

「健康長寿と腸内細菌叢」

内藤 裕二(京都府立医科大学 学生体免疫栄養学講座 教授)

「70 年目を迎えた日本のビタミン強化米—健康と食品についての
企業の取り組み」

山本 憲朗(ハウス食品グループ本社株式会社研究開発本部
イノベーション企画部 主席)

参加人数:約 85 名

3) 「お米の未来を考えるシンポジウム」(後援)

主 催:お米の未来を考えるシンポジウム 組織委員会

会 期:2023 年 12 月 8 日(金)・9 日(土)

会 場:京都大学 百周年記念ホール(京都府京都市左京区吉田本町)

テ ー マ:「これまでのお米、これからのお米。」

大会長・組織委員長:東北大学 大学院農学研究科 教授 仲川 清隆

参加人数:461 名

4) ビタミン B 研究委員会 2023 年度シンポジウム(協賛)

主 催:ビタミン B 研究委員会

日 時:2024 年 2 月 29 日(木)13:30~16:40

場 所:お茶の水女子大学 国際交流留学生プラザ 2 階 多目的ホール

テ ー マ:『病因・病態解明を目指した酵素研究』

企画・運営:生城 浩子委員、新田 陽子委員

共 催:公益社団法人 ビタミン・バイオフィクター協会

お茶の水女子大ヒューマンライフサイエンス研究所

講演内容

「セリンパルミトイル転移酵素による異常スフィンゴ脂質合成と神経障害」

生城 浩子(大阪医科薬科大学 医学部 生化学 講師)

「スフィンゴミエリン合成酵素 KO マウスを利用した疾患モデルの確立と病態機序解明」

谷口 真(金沢医科大学 総合医学研究所 講師)

「アデノ随伴ウイルスベクターを用いた遺伝子治療をめぐる話題、パーキンソン病・先天性代謝異常症など」

村松 慎一(自治医科大学 神経遺伝子治療部門 特命教授)

「細菌性ヒスチジンデカルボキシラーゼとアレルギー様食中毒」

新田 陽子(お茶の水女子大学 基幹研究院 准教授)

「キサンチン酸化還元酵素と痛風・筋萎縮性側索硬化症」

草野 輝男(日本医科大学 生化学・分子生物学 助教)

「細菌性コラゲナーゼの基礎と応用に関する研究」

保川 清(京都大学 大学院農学研究科 教授)

5) 農芸化学会シンポジウム(後援)

主 催:日本農芸化学会

日 時:2024年3月27日(水)9:30~12:00

場 所:東京農業大学 世田谷キャンパス

テ ー マ:『モデル生物・線虫 *C. elegans* を用いた食品/栄養科学の新展開』

講演内容

「*C. elegans* の寿命を指標とした機能性食品の探索:健康寿命への展望」

安田 佳代(東海大学 健康学部)

「乳酸菌・食品成分の機能性を線虫モデルで探る」

小村 智美(兵庫県立大 環境人間学部)

「線虫モデルにおけるメイラード反応生成香気の

抗老化作用およびその分子機構解明」

横山 壱成(日本大学 生物資源科学部)

「線虫を用いたビタミン生理学---未知なる分子機構の解明---

美藤 友博(鳥取大学 農学部)

「遺伝子組換え線虫を用いた食品中の機能性分子探索に向けて」

河野 強(鳥取大学 農学部)

(6) ホームページによる広報活動

学会の事業をホームページにて広報するとともに、学会誌のトピックスや、「研究紹介」をホームページに掲載することによって、ビタミン・バイオフィクターの情報を発信した。また、質問などの問い合わせに対応を行った。

(7) シンボルマークの募集

75周年記念事業として、シンボルマーク(ロゴマーク)の募集を行い 194 作品の応募があり、会員による投票の結果、最優秀作品を選出した。

4. 編集担当理事報告

(1) 学会誌「ビタミン」の発行

2023 年度は、97 巻 4 号～98 巻 3 号、計 11 冊を発行した。

掲載論文は、総説(3)、総合論文(4)、ノート(1)、ミニレビュー(5)、症例報告(1)、研究論文紹介(4)、トピックス(19)、随想他(7)、その他委員会の抄録等を掲載した。

(2) 英文誌「Journal of Nutritional Science and Vitaminology」(JNSV)の発行

公益社団法人日本栄養・食糧学会、FANS と共同編集し 2023 年度発行: Vol.69-2～Vol.70-1(6 冊)をオンラインジャーナルにより発行した。

5. 会計担当理事報告

次の件について検討し、理事会に諮った。

(1) 2022 年度収支決算書類

(2) 2024 年度収支予算書類

(3) 日本ビタミン学会第 75 回大会会計報告書類

(4) 2023 年度市民公開講座会計報告書類

(5) 公益社団法人ビタミン・バイオフィクター協会へ活動事業委託費の申請

2023 年度事業報告 附属明細書

2023 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。